



なかなかコロナの終息が見えない状況が続いていますね。このコロナ禍の生活の中でも後輩たちは、おうち時間な趣味をたくさん持って、大いに楽しみ満喫しているようで羨ましいです。  
季節も夏に向かってだんだん暑くなってきていますが、ワクチンはその季節になると打てるようになるのかなあ。早くみんなが打てるようになるといいですね(\*^▽^\*)

今月は高齢なネコちゃんに代表的なホルモンの病気、甲状腺機能亢進症についてです。

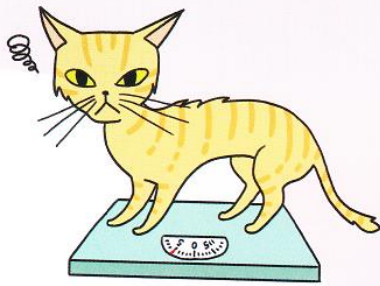
## 甲状腺機能亢進症とは？

- ・甲状腺から出るホルモンの分泌量が過剰になることで起こる全身性の病気です。
- ・甲状腺ホルモンが増えすぎると、血圧が上がり過ぎたり、心臓などへの負担がかかり続けます。
- ・甲状腺ホルモンは心臓や腎臓など、身体の様々な組織の機能を活発にするため、この病気になっても見かけ上は元気なことが多いです。
- ・元気だからと放置していると、心臓病や腎臓病が進行したりします。
- ・ネコちゃんでは7歳以上で10頭に1頭、13歳以上では5頭に1頭の割合で発症することが知られています。

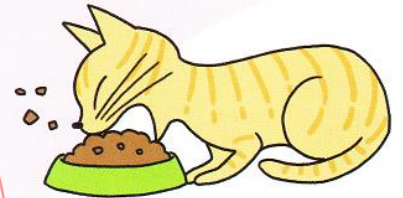
## 甲状腺とは？

- ・のどの少し下あたりに位置していて、気管の左右にあります。
- ・サイロキシンなどの甲状腺ホルモンを分泌します。
- ・甲状腺機能亢進症のネコちゃんの甲状腺は片側、または両側が大きくなっていることがあります。





- ・よく食べるけど痩せてくる
- ・性格が攻撃的になる
- ・目がギラギラする
- ・水をたくさん飲む  
(多飲多尿)
- ・嘔吐、下痢
- ・毛の光沢がなくなる
- ・脱毛



このような症状をはっきり示さないネコちゃんもいるので、7歳を過ぎたネコちゃんは定期的に甲状腺の検査を受けておくと安心だよ。



普通に生活できているから大丈夫♪って思われがちなんだ。

### 甲状腺機能亢進症の検査とは？

- ・血液検査で甲状腺ホルモンのサイロキシンを測定します。
- ・基準値より高ければ、症状や甲状腺の大きさなどを総合的に判断し診断します。



ショボ♂17才です。すっかり痩せちゃいました。シニアのネコちゃんにとって、甲状腺機能亢進症は珍しい病気ではありません。早期発見、早期治療することで寿命が延びることが明らかになっています。

### 恵子獣医師コラム

#### ～甲状腺機能亢進症の治療について～

- 1.甲状腺ホルモンの産生を抑える薬を1日2回飲むことで、体内の甲状腺ホルモン濃度を適正な状態に保ちます。今までは人間用の薬しかなく、飲ませるのが大変でしたが、最近動物用の薬が発売されたので、飲ませやすくなりました
- 2.飲み薬が飲めない猫ちゃんには、甲状腺ホルモンの原料となるヨウ素を制限した治療食があります。(病院で飼っている甲状腺機能亢進症の猫<ショボちゃん17歳>もこれを食べています)
- 3.基本的に生涯にわたる薬の服用が必要となりますが、定期的な診察による全身状態の確認や、適切な量の投薬が継続できれば、予後は良好です
- 4.高齢の猫に多い疾患であるため、腎機能の状態が悪い猫は治療ができない場合もあります。